October 30, 2021

The Episcopal Diocese of Olympia

The Episcopal Church in Western Washington www.ecww.org

2021年大会の講演：グレッグ・リッケル尊師

元シカゴの郵便局員でシンガーソングライターのジョン・プリン氏は、私の好きなミュージシャンの一人です。「Your Flag Decal Won’t Get You Into Heaven Anymore（あなたの国旗デカールでは、もう天国には行けません）」や「Big Old Goofy World,（大昔のグーフィーの世界）」などの曲を歌っていました。2020年4月7日、ジョン・プリン氏は、新型コロナウイルスの合併症により死亡した、この国の約3/4の人々の一人となりました。また、彼が歌う曲の中で私が好きなのは、「神のみぞ知る」という曲です。その曲は、次のセリフから始まります。

「神のみぞ知る、あなたの支払う代償
あなたが途中で傷つけた人のために」

私たちの福音書、マタイの福音書5章23～24節には、このように書かれています。「祭壇に贈り物を捧げているときに、兄弟や姉妹が自分に恨みを持っていることを思い出したら、祭壇の前に贈り物を置いて、まず兄弟や姉妹と和解してから、贈り物を捧げなさい。」

*贖罪の日の告白*では、ユダヤ人は次のように唱えます。「人が癒される前に、その人は自分の病気を認めなければならない。人は光を見つける前に、自分の闇を知らなければならない。そして、民族が赦されるためには、その罪を告白しなければならない。私たちは自分の罪と仲間の罪を告白する。アドナイは私たちを癒し、暗闇から光へと導いてくれる。」

このような大会向けの講演は常に注意が必要です。30分で1年を総括するにはどうすればいいのでしょうか。特に、私たちが一緒に過ごしたような年には？ですから、私はいつもお詫びから始めるようにしています。そして、今年のこの講演もお詫びで締めくくりたいと思います。

最初の謝罪は、私が言及すべきだと思われるものを見落としていたことへの謝罪です。その場合は自分はそうするだろうと確信していますので、その際はまた教えてください。きっとそうなるでしょう。

本日この講演では、冒頭に挙げた3つの言葉を中心に、新型コロナウイルスと亜種のパンデミックに世界が取り組み続けていた頃の、私たちの生活を振り返ることから始めたいと思います。そして、教会としての私たちに話を移し、個人的に分かち合うことになります。私はこの講演で、前回の大会や、実際には何年も前から始まっていた作業を継続するための枠組みを提供し、最後に私自身の作業、後悔、反省、そしてこれからの日々への希望を共有したいと考えています。

地球規模で見ると、私たちは混乱しているように見えます。世界の苦悩はとても明白で、私たちの分裂は生々しく、そして明白です。すべてのもの、すべての人に境界が引かれています。パンデミックは、世界の大きな格差を明らかにしました。特にウイルスは、好むと好まざるとにかかわらず、私たちは地球という宇宙を疾走する小さな飛行物体の上にいる1つの人間の家族であるという現実を前面に押し出しています。私たち人間の傾向として、壁や国境、境界を築くことがありますが、ウイルスはそれらのどれも尊重しないことを思い出させてくれます。

ウイルスが自国の中では自分たちの意図通りに抑えられ、隣の国や世界には影響を与えないと考える国家の不条理さは、人間がいかに自己中心的であるかを教えてくれたと言わざるを得ません。

各国も同じことを考え、実行してきました。人種、国、政党、信条など、ウイルスが気にすることはないのが実情なのです。私が生きてきた中で、本当に「みんなで一緒に頑張ろう」と思える瞬間があったとすれば、これがその瞬間です。控えめに言っても、圧倒的な支持を得ているとは言えず、安心できるものではありませんでした。

もちろん、教会としても、ウイルスやジョージ・フロイド氏の殉教によって、同じような格差が再び浮き彫りになってきています。去年も言いましたが、教会として、人間であることに変わりはない個々のクリスチャンとして、このことから免れることはできません。私たちも同じように、償うべきこと、可能であれば修復すべきことがあります。私たちの信仰が、そして私の信仰がしていることは、それが可能であるという希望と保証を与えてくれることなのです。それを諦めることはできません。

昨年の大会では、「有色人種の輪」の勇気ある証言と脆弱性のおかげで、皆さんは教会としてその転換を始めるための多くの決議に圧倒的に同意してくださいました。これもまた勇気あることであり、しかも長い時間をかけて実現されたものでした。私は当時、何度も話しましたし、あの大会を終える際にも話そうとしましたが、私たちは最も簡単な部分を終えただけなのです。

実際には、教会は昨年の大会のように、正しいことをすべて、あるいはそのほとんどを述べた決議案に署名し、それを実行するように私たちに指示し、呼びかけさえすること

がよくあります。しかし、多くの場合、そこで問題が発生してしまいます。そこで作業が止まってしまうのです。

この一年は様々な意味で試練の年でしたが、その中の一つに、オリンピア教区として、いつものパターンに陥らず、次の一歩を踏み出せるかどうかということが確実にありました。

まず、このような状況の中でも、昨年達成したことを簡単に挙げてみたいと思います。具体的な話をする前に、皆さんに一言申し上げたいと思います。皆さんは、このことを地元の人々に伝えてください。皆さんが共に適応し、共に働き、共に学び、共に成長し、そして多くの場合、私たち全員がこの新しい現実に立ち向かう中で、共に多大な忍耐と優しさを発揮してくれたことに感謝します。

聖職者と信徒のリーダーたちは、一転して、2つの方法で教会を行うことを始めなければなりませんでした。今年は、このパンデミックが終わってほしいと願っていた年でしたが、私たちの部門では、このパンデミックの時代を終わらせるために、いまだに奮闘しています。

2年前には想像できなかったことですが、今ではどれだけの人が 「あなたはまだ沈黙させられている！」という言葉の意味を正確に理解しているでしょうか。

2年前、私は自分でZoomミーティングを設定することができませんでした。今日、私は会社のCEOになっているかもしれませんし、皆さんもそうかもしれません。

パンデミックから徐々に脱却していく中で、バーチャルな礼拝だけでなく、バーチャルと面前の両方を提供し、非常に変化した人間としてそれを実行していくという、最も困難な日々が待っているかもしれません。この後、私たちは誰も同じではありません。

聖職者も信徒のリーダーも疲弊しています。生きているだけで疲れてしまっています。しかし同時に、あなたや私たちが適応していく姿を見て、本当に感動しました。

この新しい現実に対して、私たちがうまく対応できたと思うことをいくつか挙げてみます。

- 教区としては、聖職者の健康を意識し、それに焦点を当てました。私たちは、ウェルネス調査、避難、その他の提供物をバーチャルまたはその他の方法で行いました。来年もその姿勢は変わりません。
- 信徒のリーダーと聖職者の両方にサービスを提供するために、新しいバーチャルの接続点を利用して、これまでできなかった方法でサービスを提供しました。それは信徒のリーダー向けの聖職者の健康管理のためのウェビナー、教区役員/BCの研修日、移行のためのビデオ作成など、スチュワードシップ開発のためのプロ

ジェクトリソースなどです。これらの提供物は、新しく、効果的なものであり、教区全体でリーダーシップの実践と期待を標準化するのに役立っています。

- ハイブリッド型の「信徒育成カレッジ」を試験的に導入しましたが、これは非常にうまくいったので、教区や教団全体でCCDを提供する方法を改善し、変えていけるかもしれません。このパンデミックの中、CCDは米国聖公会全体で成長し、拡大し続けています。
- 私たちはサークル・オブ・カラーと協力して「タートルアイランドのための一つのサービス」を開催し、先住民や他の民族文化の礼拝のやり方を流用することなく評価する方法について、重要な話し合いを始めました。
- 私は、バーチャルなつながりの中で、私たち全員が新しいスキルを身につけていくのを目の当たりにしました。それは、前回大会と今回の大会の準備を比べてみても明らかでした。今年は、単純に成功させることへの不安や心配がかなり減りました。あなたにもそうしてほしいです。皆さんは、自分自身を誇りに思うべきです。あなたは適応し、私たちは適応しました。

私はただ、この教区のあらゆる場所にいる、信徒、聖職者、若者、年配の方、田舎にお住まいの方、都会にお住まいの方、子供、大人、すべての人に対して、ありがとう、ありがとう、ありがとう、と言いたいのです。創造性、革新性、粘り強さ、希望、そして最近の記憶の中で教会が最も荒れていて最もトラウマになっている時期に前向きな機会を見出す能力に感謝します。

「神のみぞ知る、あなたの支払う代償
あなたが途中で傷つけた人のために」-「神のみぞ知る。」ジョン・プリン氏

「祭壇に贈り物を捧げているときに、兄弟や姉妹が自分に恨みを持っていることを思い出したら、祭壇の前に贈り物を置いて、まず兄弟や姉妹と和解してから、贈り物を捧げなさい。」- マタイの福音書5章23～24節

「人が癒される前に、その人は自分の病気を認めなければならない。人は光を見つける前に、自分の闇を知らなければならない。そして、民族が赦されるためには、その罪を告白しなければならない。」- *贖罪の日の告白*

司教の事務所としての私たちの主な目標はあなたに仕え、世界におけるキリストの体として皆さんを招集することであり、そのために、今まさに中心となっている人種差別をめぐる不快な作業を含め、あらゆることを行うのだということを、今日は改めて認識したいと思います。教会は、私たちが居心地の悪さを学び、違いを超えて愛することを学び、真の衝撃を与える方法で悔い改めることを学ぶのに最適な場所です。私たち教会、キリストの体がこれを成し遂げられないのであれば、誰が成し遂げることができるのか、私は常に考え、言い続けています。それができないのであれば、私たちはいったい何者なのでしょうか？このように、私たちの基本であるモデル化ができなければ、全体と

しては絶望的であると感じています。これは、私たちが真実として宣言した言葉を話し、生き、行動する歴史上の瞬間でなければなりません。

スタッフとして、また司教の事務所として、教区内、教会内、そして世界で人種差別を撤廃する作業は、先の大会以前のかなり長い間、願望であり、希望であり、表明された目標であったと申し上げたいと思います。しかし、地球上の多くの人々にとってそうであったように、ジョージ・フロイド氏の殉教は、私たちの世界、教会、そして私たちの過去の対応やその欠如を揺さぶり、私たちの目を開かせました。私たちといえば、私たちのスタッフ、私の目を開かせたのは、私たちの作業が不完全であるという非常に現実的な事実であり、さらに重要なことは、この教区の多くの場所で、世界の人種差別だけでなく、教会の構造や、司教である私個人によっても傷つけられている人々がたくさんいるということです。

要するに、オリンピア教区の組織的な人種差別によって傷ついた私たちのBIPOCの最愛の人たちは、教区の指導者がこの作業を忠実に実行することを信用していなかったのです。それは、私たちの体のBIPOCのメンバーを傷つける決定を下すことに、指導者である私たちが加担していたためです。

今日の私の発言で何度か耳にすると思いますが、これは私たちの意図したことではなく、そう信じていますが、影響を与えてしまったのです。私たちもそれを信じ、認め、償いを始めなければなりません。

そして、本日のテーマが1つあるとすれば、それはそれでいいのかもしれないですし、少なくともその大部分を占める可能性があります。私たちは、自分の意図の快適さにとらわれるのをやめて、自分の影響力の盲点に目を開かなければなりません。意図というのは結局、十分ではなく、枠組み、願望、希望、目標に過ぎません。前回の大会では、ある意味では、この教区がかなり全面的に意思表示をしたと言えるかもしれません。その影響はまだ分かりません。それは現在進行形であり、これまでに行われたことよりもはるかに多くのことが残っています。

私たちは歴史を振り返って、何度も何度もそのようなことをしてきた、具体的に言葉を置いてきたと言うかもしれません。しかし、私たちはそれを乗り越えようとはせず、本当の問題、つまり私たちの決断や行動、そして多くの場合、私たちの不作為や不注意がもたらす影響について、ほとんど危険を冒すことはありません。

この1年で、私にとって最も説得力のある抗議のサインの1つは、次のようなものでした。

> 「ジョージ・フロイド氏はモーニングコールではありませんでした。電話は1619年から鳴っていましたが、皆さんはスヌーズボタンを押し続けているだけです。」

私にとっては、これがすべてです。あのサインの「皆さん」とは、白人、支配的な文化、私のことです。スヌーズボタンとは、意図的なものであり、平凡な言葉であり、空虚なレトリックであり、言葉であり、さらにはそれを押し下げるために取る行動でもあります。衝撃のあるものに移行しなければなりません。私たちは、この過去のスポットライトと真実を終わらせようとするのではなく、それに対処し、認め、問いかけ、そしておそらく謝罪しなければなりません。

私たちは、モーニングコールを鳴らし、勇気を持ってその影響を見つめ、スヌーズボタンを押したい衝動を抑えるために目を覚まさなければなりません。

私たちとしては、前回の大会後、そして今年に向けて、司教の事務所スタッフが以下のように合意しました。

1. 教会の人種差別に影響を受けた人々の被害をなくすことと、パストラルケアを優先すること。
2. 以下の事項に関する文化を模範とすること。
    a. 自分の非を認める。
    b. 怒らせたり、不適切な使い方をしたり、失敗したり、つまずいた時に謝罪する。
    c. 代わりにどのような新しい、または変更された行動や方針、手順を制定するかを伝える。つまり、ただ謝るだけではなく、二度と起こさないようにするためのプランを提示すること。
3. 以下の分野で多様な学習機会とリソースを提供する。
    a. 異文化対応能力。
    b. レイシズム、反レイシズム、そしてレイシズムへの抵抗。
    c. 民族的および多文化的な牧師の職務。

昨年の本大会では、このテーマについて5つの重要な決議案が提示されました。この1年間、私たちのスタッフは、サークルや教区内の指導者たちと協力して、これらを前面に押し出してきました。私はその一部を話しましたが、それ以上に、サークルのメンバーは、昨日見たビデオの中で、何が行われてきたか、何が残っているかの両方の観点から、この問題に取り組みました。これらは、多くの意味で今大会の意図するところであり、今、私たちは影響について注意深く検討し、計画を立て始めています。もちろん、私たちは、盲目的でネガティブな影響ではなく、ポジティブな影響を期待しています。

サークルの皆さんは、おそらく私が大会で経験した中で最も感動的な時間の中で、この教会の手で、この教会を共にする支配者の手で、私たちのスタッフの手で、私の事務所で、そして私の手で経験した被害を、勇気を持って、そして寛大に分かち合いました。それらはまだ私たちのウェブサイトに掲載されていると思いますので、この大会が終わりましたら、ぜひ皆さんにももう一度、それらを聞いていただきたいと思います。

この1年、私の事務所ではこの分野を担当するスタッフを採用する可能性について、サークルとの話し合いを始めました。サークルでは、多文化における牧師の職務とコミュニティ変革のための教会司祭とプログラムアシスタントというポジションの説明書を作成しました。

昨日、ありがたいことに皆さんにご承認いただいた予算案は、大胆かつ大規模なものとなっています。これは、この必要性と、私が言うところの「必要な投資」のためであり、今行わなければならないと考えているためです。そのため、2021年の予算より8%増とし、教会司祭とプログラムアシスタントのフルタイムのポジションを含んでいます。その教会司祭はサークルとの共同作業者であり、司教の事務所スタッフの幹部となります。現在、サークルが推薦し、私が任命した調査委員会がこの教会司祭のポジションを埋めるために動いています。

通常の教会司祭であるアリエン・デイヴィソン氏の口癖である「この作業は信頼のスピードで動く」というのは、とても真実味のある言葉です。

> 「神のみぞ知る、あなたの支払う代償
> あなたが途中で傷つけた人のために」–「神のみぞ知る。」ジョン・プリン氏

> 「祭壇に贈り物を捧げているときに、兄弟や姉妹が自分に恨みを持っていることを思い出したら、祭壇の前に贈り物を置いて、まず兄弟や姉妹と和解してから、贈り物を捧げなさい。」– マタイの福音書5章23〜24節

> 「人が癒される前に、その人は自分の病気を認めなければならない。人は光を見つける前に、自分の闇を知らなければならない。そして、民族が赦されるためには、その罪を告白しなければならない。」- *贖罪の日の告白*

最後になりましたが、この日はこの1年間の個人的な作業についてお話したいと思います。今年、私たちスタッフの何人かは、非強制的なリーダーシップのための交差するフェミニストのアプローチに関するコーチングを受ける機会に恵まれました。私は、多少の不安を感じながらこの作業に取り組みました。ちなみに、この作業を本当にやろうとするのであれば、そのような気持ちを持つことになるでしょうし、私がフェミニズムを学んでいることがこの作業に大きく関係しているのではないかと躊躇することもありましたが、正直に言うと、これは私の人生の中で最も生命を与え、明らかにする経験の一つでした。もし、あなたがそのような作業に挑戦する際に、少しでも怯えたり、心配したり、自信をなくしたり、バランスを崩したりしないのであれば、あなたは自分がしなければならない深い作業をしていない可能性があることを覚えておいてください。

私たちのコーチであるキンバリー・ジョージ氏は素晴らしかったです。そして、この勉強、コーチング、読書、特に黒人女性主義者の神学や文章を通して、私は何かに目覚めたことを知ってほしいと思います。私の話を聞いている皆さんの少なくとも半分は、目を丸くしたり、天を仰いで「主よ、いつまでですか」と言うことになるでしょう。あるいは、あなたが寛大であるならば、笑顔で「そろそろかな」と思うかもしれません。そして、それは分かるのですが、啓示を受けたのはこの内容です。

この立場にある私の力、白人であること、男性であること、特権を持っていること、この国や世界の支配的な文化の一部であること、これらすべての理由から、私と付き合う人は、その関係になるために、より多くの感情的な労働をしなければならないのです。この9ヶ月間のコーチングで分かったことは、私がいかに多くの感情的な労働を引き起こし、時にそれを利用しているかということでした。それは意図的なものでしょうか？まあ、確かにいつもではありませんが、正直に言えば、もちろんそれを使えることは分かっています。実際には、そのような名前はありませんでしたし、使っていましたし、持っていましたし、いつもうまくいくわけではありませんし、いつも正しいわけではありませんし、いつも自分の役割や立場に合っているわけではありません。

自分ではよく見えていると思っていても、目が見えないことの方がはるかに大きいのです。私が多くの人に与えた感情的な負担は、私が対処し、償い、将来のために自分の中で修復し、取り繕う必要があります。

この一年の間に、私は牧師と直接対話する機会を得ました。レイチェル・タバー・ハミルトン氏と教会司祭のジェリー・シガキ氏は、信頼を回復するための困難で長い作業を始めました。二人とも非常に勇気があり、礼儀正しい議論をしてくれたので、公に感謝したいと思います。その中で、自分が彼らに与える影響、過去の自分の行動、言葉、不作為、場合によっては不注意が何であったかを知りました。まだまだ知らないことがたくさんあると思います。特にシガキ教会司祭は、司教になって間もない頃の経験を勇敢にも語ってくれました。傷つけようとしたわけではありませんが、衝撃がありました。今ではその内容を知っていますし、認めています。シガキ教会司祭がこのことを信じるのは非常に難しいことかもしれません。しかし、私は彼の献身的な努力、キリストの弟子としての自覚、そして何よりも彼の名誉を疑うことはありませんでした。それこそが、私が彼を名誉教会司祭に指名した理由です。彼は、そのような名誉の最たるものです。

しかし、シガキ教会司祭自身の言葉を借りれば、私の自分や周りの人への接し方を残酷で虐待的なものと表現しています。耳が痛いですね。意図していたわけではありませんでしたが、そのような影響があったことを知りました。そこで、今日は皆さんの前で、私のせいで苦しい思いをしたシガキ教会司祭に、公式に謝罪したいと思います。

この謝罪によって、私は許しを期待しているわけではありませんし、過去をより深く検証し、問い直す必要がないとは思っていません。

まだまだお詫びしなければならないこと、修復しなければならないことがたくさんあると思います。完治しないものもあるでしょう。

私は牧師に謝罪しなければなりません。レイチェル・タバー・ハミルトン氏も同様で、彼女は私が彼女に与えた影響、私が彼女に与えた感情的な負担を私と共有する作業を快く始めてくれました。その作業は続いています。

これは私の作業であり、あなたの作業でもあると思います。私はこの分野では初心者ですが、それでもあなたにも挑戦したいと思っています。あの贖罪の日の告白がとても正しいからです。

> 「人が癒される前に、その人は自分の病気を認めなければならない。人は光を見つける前に、自分の闇を知らなければならない。」

これは簡単なことではありませんでした。しかし、愛すべきコミュニティのビジョンを実現するためには、それが唯一の道だと確信しています。このようなことを言わなければならないのは心苦しいのですが、私は最終的にはこの道に非常に強い決意と落ち着きを持っています。これは難しいことですが、私たちの教会でこれを実現するためには、私たち全員がこの作業に取り組まなければなりません。それは、あなたと一緒にできる作業かもしれませんし、私がいないほうがいい作業かもしれません。そのすべてがまだ卓上にあります。いずれにしても、この勢い、この瞬間、この機会を逃すわけにはいきません。「スヌーズボタン」を押してはいけないのです。

教会で司教になることに関する事実の1つは、本当のトレーニングマニュアルがないということです。私はここに来て、急流に落ちたような気持ちになったことを覚えています。息を切らしながら、水面から頭を出して生き延びようとし、リーダーとしての傲慢さから、素晴らしく安全で一緒にいるように見せようとしていたのです。

というのも、急流の中で頭を水面から出すのがやっとという状況は、冷静沈着に見える場所ではないからです。それは謎解きであり、私はそれが得意なのです。優れたリーダーには、困難な状況にあっても、不安を感じさせず、一緒にいて、一見冷静であることが必要な場合がありますが、その同じスキルは、意図的であろうとなかろうと、良いことにも悪いことにも使うことができます。私は両方を実践しています。

私は、14年以上前にあなたの呼びかけに応じた人でも、同じ司祭でもありませんが、その14年間のすべてを自分のものとし、その間に多くの間違いを犯したことも承知しています。人間である以上、これからもたくさん作ることになるでしょう。

しかし、私が信じているのは、それらを軽減する方法、それらを所有する方法、それらを償う方法を学ぶことができるということです。そして、私たちが出会う誰にとっても

、その闘いを少しでも楽に、感情的な負担を少なくするための努力をすることができるということです。

これは言い訳でもなければ、合格を目指しているわけでもありません。私にはどちらの資格もありません。正直に言うと、私の目の前にある個人的な作業や挑戦を少しでも皆さんと共有し、皆さんにもそれに挑戦していただきたいと切に願っています。

昨年の大会では、この作業に関するいくつかの重大な決議を行った際に、私は皆さんに「これは簡単なことだ」と念を押しました。決議を行い、言葉を発し、計画や目標、さらには愛すべきコミュニティのビジョンを打ち出しますが、難しい部分はまだ私たちの前にあります。

その作業は幸いにも始まっていますが、まだまだ長い、長い道のりがあります。本日、皆さんの前に立って、私には長い、長い道のりがあることを認めたいと思います。

だからこそ、今年は私たちの希望、ビジョン、愛するコミュニティへの憧れを受け止め、それを実現するために不可欠な信頼を再構築するための大変な作業を始める時なのです。果たしてそこにたどり着けるのでしょうか？正直なところ、分かりません。多くのことがうまくいかなければならず、多くのことを修正し、認め、許す必要があります。私が知っていること、信じていることは、この作業は本格的に、地元で、あなたの環境で、そして最終的にはあなたの中で、あなた一人一人の中で始めなければならないということです。

去年、私たちは一緒に「スヌーズボタン」を押したい衝動を抑えました。モーニングコールはまだ鳴っています。長くなればなるほど、誘惑が多くなり、耐えられなくなり、叩いたり、スヌーズしたり、眠りに戻ったり、別の恐ろしい瞬間を待ったりして、ここまではまだしも、それ以上になると動けなくなってしまいます。

抵抗しましょう。鳴らしてみましょう。スヌーズはやめましょう。

今日の講演の後に行われるディスカッションでは、まさにそのために、地元の皆さんに代表団と一緒にこのテーマに取り組んでもらうことにしました。このような質問を取り上げることがあります。

和解に向けて歩みを進め、イエスの愛する共同体になることを願って。

- 過去の罪を問い、告白し、不信感や疑念を減らすために、会衆として一緒に何をするのか。
- 自分の罪を反省し、人間関係を再構築するために、スピリチュアルな生活や練習において、個人的に何をしようとしていますか？

- あなたの会衆がスヌーズボタンを押す衝動に抵抗するために、どのように支援しますか？
- 過去を問い直し、過去の罪を告白して不信感や疑念をできる限り払拭し、和解と愛すべき共同体に近づくために、あなた方は一緒に、地域で、あなた方の文脈で、何をしますか？
- そして、個人的に、自分の魂の中で、何をしようとしていますか？

「神のみぞ知る、あなたの支払う代償
あなたが途中で傷つけた人のために」–「神のみぞ知る。」ジョン・プリン氏

「祭壇に贈り物を捧げているときに、兄弟や姉妹が自分に恨みを持っていることを思い出したら、祭壇の前に贈り物を置いて、まず兄弟や姉妹と和解してから、贈り物を捧げなさい。」– マタイの福音書5章23～24節

「人が癒される前に、その人は自分の病気を認めなければならない。人は光を見つける前に、自分の闇を知らなければならない。そして、民族が赦されるためには、その罪を告白しなければならない。私たちは自分の罪と仲間の罪を告白する。アドナイは私たちを癒し、暗闇から光へと導いてくれる。」– *贖罪の日の告白*

アーメン。